

## 基調講演 概要

講師 : 湯浅 誠 法政大学教授

### (1) 全国ツアーのメインテーマ

子供食堂の取組について多くの人達に理解を広げていく。

### (2) 取組の内容について

#### ア.子供食堂の2つの役割

##### (ア) 貧困対策

健全な子供を育てるためには4つのことが必要

##### a.居場所

自分にとって居心地のいい場所、自然体のままでいいところであり、食事を出してくれて、一緒に食べてくれる人がいる。

また、寝る場所もあり、生きるうえで基本的な知識を教えてくれる場所である。

##### b.体 験

いろんな方とつながり、生活をする中で様々な体験や問題解決に向けた対応を経験することが可能な場所で、価値観の視野が広がり、子供の発想力が育まれ、人生の選択肢が広がることを期待できる。

##### c.時 間

様々な方々との交流「かまってくれる時間」の中で、言葉や振る舞い、仕草、社会性を身に付けることが出来る場所である。

##### d.トラブル対応

病気や怪我など身体的障害を負った時に対応をしてくれる。

進学に係る就学資金や生活するうえで必要な各種手当等などの情報を得ることが出来る場所である。

#### (イ) 地域づくり

地域の交流を促進し、地域で必要とされる場所になる。

現在、地域では、自治会活動等も少なくなり、孤立する子どもや大人がいる。

そのような状況の中、「大人でも子供でもどなたでもどうぞ」のスタイルで、間口を大きく広げ、多くの方が関わる交流の場所であり、再度、自治会等のコミュニケーションを立て直すための一つの取組になる。

また、地域の自治会や学校、公的機関等と交流を図り、信頼関係を築き地域の人達に必要とされる場所になる。

#### イ. 子供食堂の5つの課題

- (ア)「人」 スタッフ、リーダー、ボランティア等、人が集まらなくて困っているという声をよく聞く。
- (イ)「お金」 事業を活用してやっているところもあるが、手弁当や全くのボランティアで取り組んでいる団体がほとんどであり、食材費等の費用が負担になっている状況もある。
- (ウ)「場所」 固定の場所を確保してやっているところもあるが、公民館や公共の施設等を利用する場合、毎回確保することが難しい場合がある。
- (エ)「周知・広報・連携」

地域の子供食堂同士のつながりがないところもあり、また、地域の自治会、PTA、消防団、学校など公的機関等とのつながりがない場合もある。

このような状況では、子供食堂が何をやっているのか分かっておられないため地域で話題になりにくく、子供達へ伝わらないことになる。

このようなことから、子供食堂に関わる関係者や関係機関と信頼関係を築き連携を図るため、「周知・広報・連携」を行うことが必要と思われる。

(オ)「ほけん」

2つの「ほけん」を意味する。

1つ目は「傷害保険」への加入。

子供食堂を利用する方々が怪我をした場合、誰が責任を取るかといったケースが発生する場合がある。

2つ目は食中毒の問題であり、衛生面の「保健」。

「安心・安全」な居場所をどう構築するのかという問題である。

ウ. 子供食堂に望むもの

子供食堂は、地域の人たちに理解され、必要とされるものになってもらいたい。

そうすれば、子供だけが元気になるのではなく、大人のつながりも太くなり、地域が強くなる。

地域が強くなれば、地域から人がこぼれにくい地域が出来る。

人々がこぼれにくい地域は、自分自身にとっても安心して暮らしやすい地域になる。

子供食堂に直接関わっている人も周りの人たちも地域を元気にするという視点で、自分は何が出来るか考えていただきたいと思う。